

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立八雲中学校）

平成30年9月25日

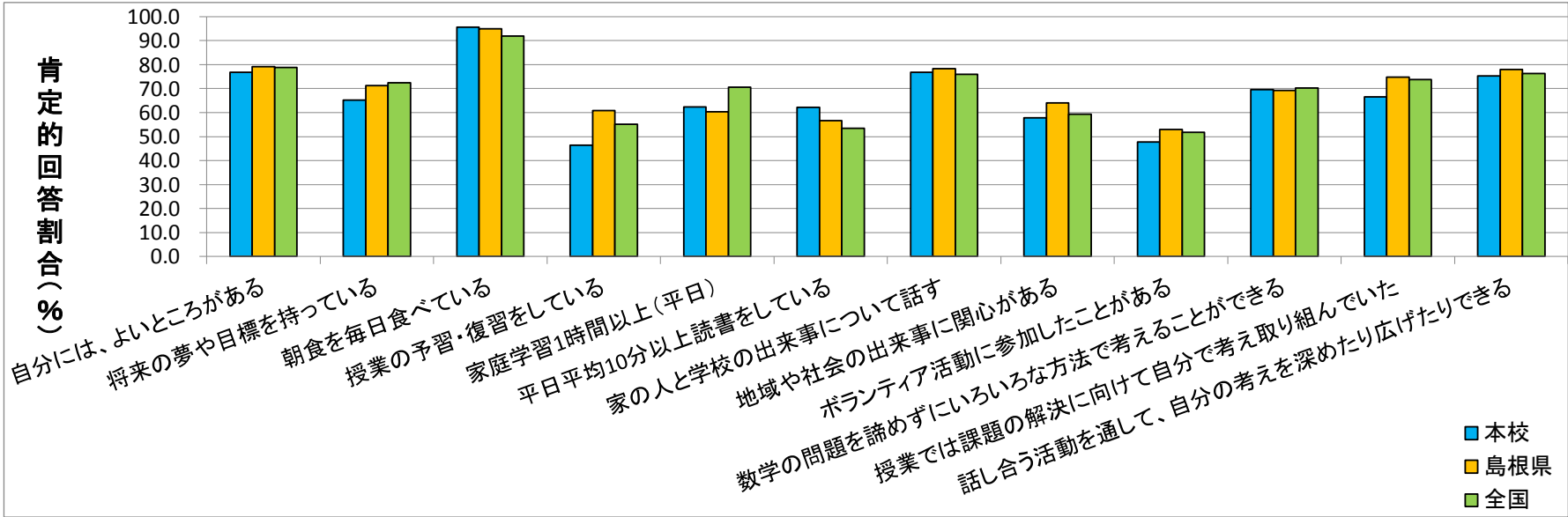
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○「書く能力」「読む能力」は全国平均や島根県の平均とほぼ同じである。 ●「話す・聞く能力」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国・島根県との差が大きい。漢字の力や語彙の不足がその要因として考えられる。	・漢字テストで漢字の読み書きの力をつけるだけでなく、覚えた漢字を文章を「書く」際にも積極的に使うよう繰り返し指導する。 ・授業の中で意味調べをさせるだけでなく、その言葉を別の言葉に言い換えをしたり、テストの問題に語句の意味を問う設問を増やしたりする。
	B (活用)	○全国・島根県との差から見ると「書く能力」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国・島根県の平均より高い。活用の力が高いといえる。 ●国語Aでは全国や島根県の平均とほぼ同じだった「読む能力」が国語Bでは低い。	・複数の文章や資料を合わせて読ませる機会を増やし、書かれていることを関連付けて読み取る力を養う。 ・読み取ったことを「書く」活動を今後も積極的に行い、「書く能力」をさらに高める。
数学	A (基礎)	○図形領域は全国平均に近い。 ●正答率が全領域で全国平均より低い。資料の活用の領域はさらに低い。	・既習内容の知識や理解の確認をする。 ・基本的な計算などの技能の定着のための繰り返し練習を行い、「できる」ことを増やす。
	B (活用)	○関数領域は全国平均に近い。 ●短答形式または記述形式で答える問題の無回答率が高い。(数学Aでも同様)	・知識・理解の定着、技能の向上の取組と並行して、それらを利用することのよさを実感できるようにする。 ・答え方のスキルを身につけさせる。特に短答または記述形式では、書き始めの部分や単位を意識することの指導を重点的に行う。
理科		○主として「知識」に関する問題の正答率が高い。 ●記述式の無答率が高く、正答率は低い。 ●主として「活用」に関する問題の正答率が低い。(特に、構想、検討・改善に関する問題が低い)	・基礎・基本の定着を図る取組(小テストや反復練習など)を継続する。 ・観察・実験レポートでは、自分の考えを文章や図表などを用いて表現することに重点を置き、記入したことを交流する時間を設定する。 ・課題づくりや実験計画を通して、活用する力を伸ばす。

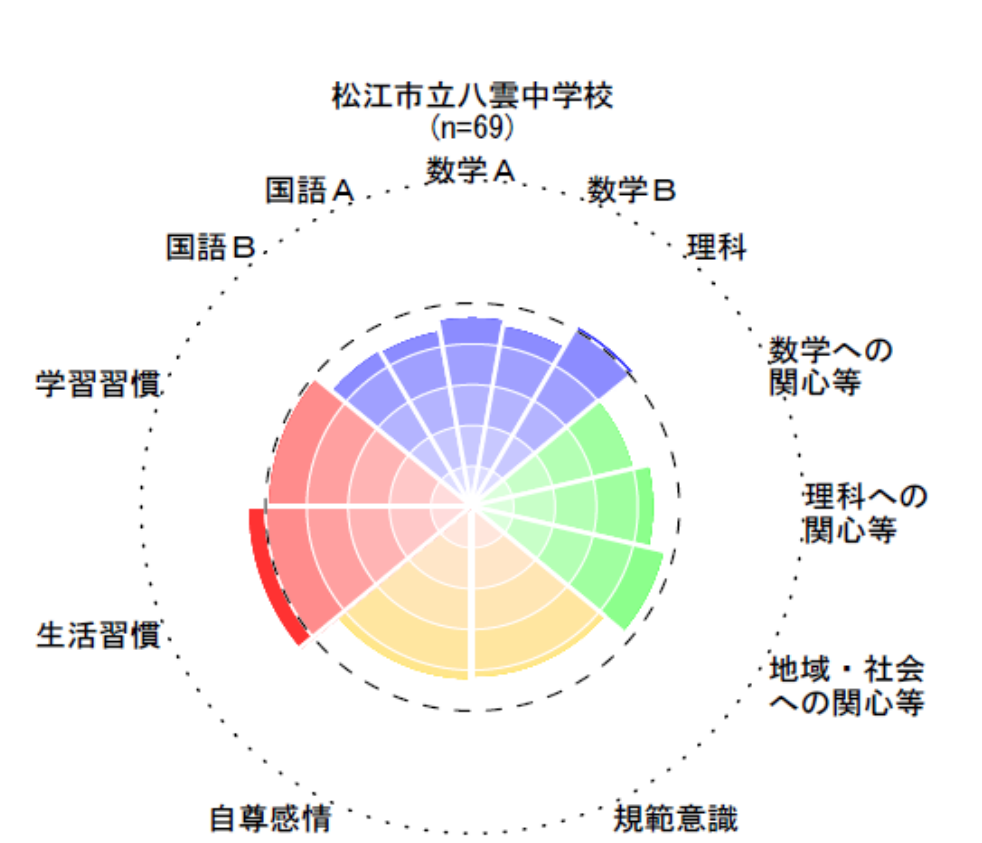
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○生活習慣については良い数値を示している。 ●将来の夢や目標を持っている生徒の割合が全国・島根県の平均より低いことが一つの要因となって学習への意欲や取り組み方についての数値が低いと考えられる。 ●授業の予習・復習をしている、と答えた生徒の割合が低い。	・将来の自分像を描く機会を設定するなど、進路指導を充実させる。 ・生徒に予習や復習の課題を出すだけではなく、チェックや評価についても方法を見直す。予習や復習で行ったことが授業やテストで生かされる実感を持たせる。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・粘り強く課題に取り組んでいける生徒の育成をめざし、スモールステップの課題設定や意欲的に取り組める課題設定を工夫する。
- ・自尊感情が高まるよう、できたことなどを褒める機会を増やす。
- ・平日平均10分以上の読書時間が確保できている生徒は多いが、学校での朝読書によるものと思われる。家庭での読書時間が確保されるよう、学校が今年度力を入れている読書指導を引き続き行っていく。

【参考】

		平均正答率 (%)			
国語	A	72	76	76	76.1
	B	57	61	61	61.2
数学	A	62	65	64	66.1
	B	41	46	45	46.9
理科		67	65	66	66.1

受検者数 70 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。